

I 厚生労働科学研究費総合研究報告書

がん検診の精度管理における指標の確立に関する研究

研究代表者 高橋 宏和 国立がん研究センターがん対策研究所 研究員

研究要旨

本研究では、がん検診の精度管理における指標を確立することを目的とする。住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。令和3-5度において、班会議を計5回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。検討項目として、住民検診における精度管理体制の検討、プロセス指標の新基準値、レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用、がん検診の提供体制、健診標準フォーマット、がん検診における判定区分、がん検診指針の修正点、職域における乳がん・頸がん検診の実態、地域保健・健康増進事業報告の簡素化、HPV検査単独法による子宮頸がん検診導入におけるチェックリストなどに関し多岐にわたる検討を行った。成果については、厚生労働省厚生労働省「第33回がん検診のあり方に関する検討会」、「第34回がん検診のあり方に関する検討会」、「第37回がん検診のあり方に関する検討会」に報告し、政策決定の参考資料として情報共有を行った。がん検診の精度管理における今後の課題として、組織型検診に向けた整備、職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知、がん検診教育プログラム、人間ドックなどにおけるがん検診の判定基準の統一などが挙げられ、引き続きほかの厚労科研究班や学会などとの連携し、課題解決することが求められる。

A. 研究目的

日本におけるがん検診は、実施主体により地域住民検診（住民検診）および職域検診に大別されるが、その精度管理の状況は異なる。健康増進法のもとに、精度管理が整備されてきた住民検診と異なり、職域検診においては根拠となる法令がなく、多くの場合保険者や事業主により福利厚生の一環として提供されており、精度管理はされていないのが現状である。がん検診を行うことにより利益と不利益が生じるが、精度管理を適切に行うことで、利益を最大化し不利益を最小化することが可能となるため、がん検診のプログラムのいずれにおいても精度管理体制が整備され、検診の質を高めることが、国全体のがんの死亡率減少につながる。

本研究では、住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。

B. 研究方法

○住民検診

1. 住民検診における精度管理体制の検討

がん検診の精度管理は、「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」（平成30年～令和2年度、代表者：高橋宏和）にお

いてこれまで検討されてきたが、精度管理の指標となるチェックリスト実施率やプロセス指標のモニタリングおよび評価・改善への取組を継続することにより、その体制を整備している。本研究では、これまでの検討を継続しつつ、実施主体となる自治体が受診者に対してより適切な受診行動を提供できる方策を、また不利益よりも利益が上回る検診を提供できるような方策を検討する。

2. 地域保健・健康増進事業報告の項目および利活用法の検討

地域保健・健康増進事業報告は、毎年市区町村から都道府県を通じて国に報告され、がん検診などの現状を把握し、適切な対策を検討するための資料となるが、項目が多く複雑であるなど問題点が指摘されていることから、簡素化することががん検診のあり方に関する検討会において求められている。また、自治体における利活用が進んでいないことから、わかりやすい利活用法が望まれている。本研究では、これらに対する解決策を検討し、自治体の精度管理機能の向上を目指す。

上記の検討は、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」で推奨されている、5つのがん種の検診に精通している分担研究者を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。

（胃がん：加藤、大腸がん：斎藤・松田、肺がん：佐川・中山、子宮頸がん：青木・森定、乳がん：笠原、アセスメント：細野、マネジメント：町井）

○職域検診

1. 「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する検討

職域検診における指針として、平成30年に「職域におけるがん検診に関するマニュアル」が示さ

れたが、解釈が難しく利活用は進んでいない。特に、チェックリストやプロセス指標に関する項目については、現状と乖離している箇所が指摘されている。これらの改善点を検討することにより、実施主体となる保険者や事業主の利活用を促し、職域における精度管理の水準が向上するよう検討する。

2. レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用に関する検討

がん検診の精度管理が整っている欧州の国などでは、がん検診に関するデータは一元管理され、即時性が高く、有事における対応や研究への利活用が進んでいる。日本では、がん検診データは主にそれぞれの実施主体が管理していることに加え、個人情報保護の観点などからその運用は限定的である。一方で、レセプト情報によるがん患者の特定などにより、職域におけるがん検診の精度管理への応用が期待されている。本研究では、レセプト情報のがん検診への活用に関するこれまでの検討を踏まえ、妥当性の評価や具体的な利用法を協力保険者において実施し、実装化に向けた検討を行う。

上記の検討は、レセプト情報のがん検診への利活用に精通している分担研究者（祖父江、小川、立道、雑賀）を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。（抽出ロジックの検討：小川・祖父江、妥当性検討：小川・祖父江・立道・雑賀）

○関連研究との連携

本研究の実施にあたり、関連する厚生労働科学研究補助金による研究「がん検診事業の評価に関する研究（代表者：高橋宏和）」、「職域における、より質の高いがん検診を提供するための研究（代表者：祖父江友孝）」における取組と連携するよう努める。

（倫理面への配慮）

「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮する。なお、本研究は既存資料を用いた観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の人権は擁護されると考える。

C. 研究結果

2021年度

令和3年度は、班会議を2回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。結果を以下にまとめる。

○住民検診における精度管理体制の検討

精度管理の指標となるチェックリスト実施率やプロセス指標のモニタリングおよび評価・改善への取組を継続しつつ、実施主体となる自治体が受診者に対してより適切な受診行動を提供できる方を、また不利益よりも利益が上回る検診を提供できるような方策を検討した。特に胃内視鏡検診においては、適切でない生検の増加による要精検率の増加が各地より報告されており、実施者に対する理解向上策が検討された。

○プロセス指標の新基準値について

住民検診においては、近年プロセス指標の改善

が見られることから、平成20年に公表された基準値を改定することにより、さらなる検診の質改善が期待される。これまでの議論をもとに、望ましい状況におけるプロセス指標を算出し各がん種の状況に合わせて算出方法の修正を行った。胃・大腸・子宮頸がん検診における基準値は、おおむね検診の現場が受け入れることのできる範囲内であったが、肺については、検査感度が想定よりも低いことが想定されること、検査間隔が推奨される1年よりも短い可能性があること、乳がんについては、検査間隔が推奨される2年よりも短い可能性があることなどの理由により、されなる見直しの必要性が議論された。

○レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用に関する検討

レセプト情報のがん検診への活用に関するこれまでの検討を踏まえ、妥当性の評価や具体的な利用法を協力保険者において実施し、実装化に向けた検討を行った。がん罹患者の抽出方法に加え、精密検査受診者の抽出ロジックが整いつつあり、今後より適切な抽出方法について検討を続ける。

2022年度

令和4年度は、班会議を2回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。結果を以下にまとめる。

○今後の日本におけるがん検診の提供体制の課題

- ・ 組織型検診に向けた整備
- ・ 職域検診と住民検診の連携による、受診しやすいつ体制の構築
- ・ 職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知
- ・ 医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育におけるがん検診教育の導入・拡充

○健診標準フォーマットについて

- ・ 人間ドックにおけるがん検診の判定基準の統一
- ・ 人間ドックにおけるがん検診の精度管理

○レセプトを用いたがん検診の精度管理

- ・ レセプトと検診結果を突き合わせた、プロセス指標、感度・特異度算定システムの構築
- ・ 精検受診者抽出ロジック・がん患者特定ロジックの検討

○プロセス指標新基準値

- ・ がん検診の精度管理水準の向上に伴い、プロセス指標の基準値を現状に合わせ修正
- ・ 男女別・年齢階級別・初回非初回別などに各プロセス指標の基準値を設定し、対象集団の構成によりそれぞれ基準値を算出することを想定
- ・ 日本全体の人口構成による基準値を算出し第37回がん検診のあり方に関する検討会に報告

2023年度

令和5年度は、班会議を1回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。結果を以下にまとめる。

○がん検診指針の修正点について

- ・ 「問診」は要精検判定の基準にすべきでない
ので指針の検診項目から外し、5 がん共に医師
以外による「質問」にできないか
- ・ 子宮頸がん検診の項目からコルポ・内診とい
う文言を、それらの有効性が証明されていな
いために削除してはどうか
- ・ 全がんにおいて精密検査方法を明記してはど
うか
- ・ 胃がん検診の「当面の間」の見直しにはデー
タ（特にプログラム感度の再解析など）での
検討および慎重な議論が必要
- ・ 子宮体がんに関する記述は削除すべき

○レセプトを用いたがん精密検査抽出ロジックに ついて

- ・ 汎用化についてシステムとしてはできあがっ
ているが普及のための組織体制を検討する段
階
- ・ 子宮頸がんでは論文では浸潤がんをターゲッ
トに限定したが、検診では CIN3+浸潤がんが
ターゲットなので、そちらに合わせたロジッ
クを検討する必要がある
- ・ システムの名称について

○職域における乳がん・頸がん検診の実態につ いて

- ・ 4年ぶりに行ったアンケートによると、対象年
齢の遵守率は、子宮頸がんは高いが乳がんは
低く、受診間隔はどちらもほとんどが1年間
隔であった
- ・ 検診受診勧奨は実施しても精検受診率の把握
はできていない
- ・ HPV やブレスト・アウェアネスなど新しい情
報の把握は2~4割程度

○地域保健・健康増進事業報告の簡素化につ いて

- ・ 報告項目が複雑化する一方、細かい数値がど
のように役立っているのか評価が必要
- ・ 項目の整理は一気に減らすのではなく、吟味
が必要

○HPV 検査単独法による子宮頸がん検診導入にお けるチェックリストについて

- ・ 現在、まず厚労青木班で実施マニュアルを作
成しており、それに基づいたチェックリスト
が作成できるよう検討することになる

○ロジックモデルについて

- ・ 第4期がん対策推進基本計画のロジックモデ
ルについて、精度管理の不利益に関する中間
アウトカム指標の偽陽性割合の代替として、
要精検率を用いてはどうか

D. 考察

がん検診の精度管理は、がん検診プログラムのす
べての過程をもれなく点検して、質を維持向上す
ることにより利益を最大化させる取り組みである。
日々進歩する医学や変化する状況について各専門
家と定期的に情報交換することは、質の高い精度管
理を整備する上で重要である。

令和3年度は班会議では、各がん種の幅広い問題
点が議論され、がん検診の精度管理の課題につ
いては、胃内視鏡検診における適切な生検の実施を自治
体に再度周知すること、肺がん検診における判定を
人間ドック学会などの基準と統一すること、職域検
診の実施者に対して精度管理の考え方を提供す
ることなどが取り上げられた。また、乳がん検診にお
けるブレスト・アウェアネスの啓蒙、子宮頸がん検
診におけるHPV検査の導入に向けた問題点の整理、
レセプトを用いた新たな精度管理手法の開発につ
いては、関連する厚生労働科学研究班などと協力体
制が構築され検討することが可能であった。

令和4年度はがん対策推進基本計画の改定時期と
なったため、今後の日本におけるがん検診の提供体
制の課題が多く取り上げられた。がん検診による死
亡率減少効果を高めるために、組織型検診に向けた
整備が必要であり、現状では乖離の大きい住民検診
と職域検診の統合は重要な課題であり、継続して検
討することが求められる。また、職域検診と住民検
診の連携による、受診しやすい体制の構築や職域に
おけるがん検診に関するマニュアルの周知および、
医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育に
おけるがん検診教育の導入・拡充については、関連
学会・団体などとさらに連携して取り組む必要があ
る。

令和5年度はがん検診のあり方に関する検討会で
がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための
指針が議論されていたため、班会議においても関心
が高く、特に現状に沿わない点についての指摘がな
された。また、子宮頸がん検診の方法が変更にな
ったことや、ロジックモデルによるがん対策の評価な
どについても、ほかの厚生労働科学研究班との連携
のもと情報交換がなされた。地域保健・健康増進事
業報告の簡素化については、データの利活用の評価
が必要であることや、項目の整理には慎重な検討が
必要ことが意見として挙げられた。がん検診によ
る死亡率減少効果を高めるために、組織型検診に向
けた整備が必要であり、現状では乖離の大きい住民
検診と職域検診の統合に向けた議論は引き続き検
討する必要がある。

E. 結論

本研究の成果については、厚生労働省「第33回が
ん検診のあり方に関する検討会」、「第34回がん検

診のあり方に関する検討会」、「第37回がん検診のあり方に関する検討会」に報告し、政策決定の参考資料として情報共有を行った。がん検診の精度管理における今後の課題として、組織型検診に向けた整備、職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知、がん検診教育プログラム、人間ドックなどにおけるがん検診の判定基準の統一などが挙げられ、引き続きほかの厚労科研究班や学会などとの連携し、課題解決することが求められる。

また、職域検診と住民検診の連携による、受診しやすい体制の構築や職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知および、医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育におけるがん検診教育の導入・拡充についても、関連学会・団体などと連携して取り組む必要がある。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Fujiwara M, Yamada Y, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N, Inagaki M. Encouraging participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia: A randomized controlled trial. *Acta Psychiatr Scand.* 144:318-328. 2021.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D. The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol.* 32(3):e29.2021
- 3) 高橋宏和. 職域検診の現状と方向性. *日本乳癌検診学会誌* Vol.31 No.1 Page47-48. 2022
- 4) 高橋宏和、町井涼子. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. *日本がん検診・診断学会誌* Vol.29 No.3 Page 173-177. 2022
- 5) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. HPV 検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会誌.*29(3):185-192. 2022
- 6) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. *厚生労働省の指標.* in press
- 7) Akiyama M, Ishida N, Takahashi H, Takahashi M, Otsuki A, Sato Y, Saito J, Yaguchi-Saito A, Fujimori M, Kaji Y, Shimazu T; INFORM Study Group. Screening practice of cancer survivors and individuals whose family or friends had a cancer diagnoses—a nationally representative cross-sectional survey in Japan (INFORM Study 2020). *J Cancer Surviv.* 2023 Apr 12;1-14. doi: 10.1007/s11764-023-01367-4. Online ahead of print.
- 8) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. *JCO Glob Oncol.* 2023 Jan;9:e2200222. doi: 10.1200/GO.22.0222.
- 9) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. *Cancer Epidemiol.* 2023 Feb;82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.
- 10) Okuyama A, Watabe M, Makoshi R, Takahashi H, Tsukada Y, Higashi T. Impact of the COVID-19 pandemic on the diagnosis of cancer in Japan: analysis of hospital-based cancer registries. *Jpn J Clin Oncol.* 2022 Oct 6;52(10):1215-1224. doi: 10.1093/jcco/hyac129.
- 11) Yamada Y, Fujiwara M, Shimazu T, Etoh T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N, Inagaki M. Patients' acceptability and implementation outcomes of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia: a qualitative secondary analysis of a mixed-method randomised clinical trial. *BMJ Open.* 2022 Jun 14;12(6):e060621. doi: 10.1136/bmjopen-2021-060621.
- 12) Otsuki A, Saito J, Yaguchi-Saito A, Odawara M, Fujimori M, Hayakawa M, Katano da K, Matsuda T, Matsuoka Y, Takahashi H, Takahashi M, Inoue M, Yoshimi I, Kreps GL, Uchitomi Y, Shimazu T. A nationally representative cross-sectional survey on health information access for consumers in Japan: A protocol for the INFORM Study. *World Medical & Health Policy.* 2022;1-51. DOI: 10.1002/wmh3.506
- 13) Saito J, Odawara M, Takahashi H, Fujimori M, Yaguchi-Saito A, Inoue M, Uchitomi Y, Shimazu T. Barriers and facilitative factors in the implementation of workplace health promotion activities in small and medium-sized enterprises: a qualitative study. *Implement Sci Commun.* 2022 Mar 2;3(1):23. doi: 10.1186/s43058-022-00268-4.
- 14) 高橋宏和. がん検診の必要性. *厚生労働* 202 3.01 Page 10-11
- 15) 加藤勝章、青木利佳、安保智典、小田丈二、小池智幸、高橋宏和、平川克哉、山道信毅. 2019

- 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告 日本消化器がん検診学会雑誌 61(1),2023/01
- 16) 松本綾希子、奥山絢子、後藤温、町井涼子、祖父江友孝、高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症の流行によるがん医療の受療状況の変化. 日本公衆衛生雑誌 69(11): 903-907, 2022/11
 - 17) 高橋宏和. 乳癌検診に関する調査と現状 Rad Fan 20(12): 2022/10
 - 18) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. 厚生指標 69(8): 14-22, 2022/8
 - 19) 高橋宏和. COVID-19 のがん検診およびがん診療への影響. 日本医師会雑誌 151(5): 795-799, 2022/8
 - 20) 高橋宏和. 職域がん検診の現況と課題. 日本医師会雑誌 151(5): 791-794, 2022/8
 - 21) 齋藤義正、高橋宏和、若尾文彦. がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割. 日本公衆衛生雑誌 69(7): 527-535, 2022/7
 - 22) Hamashima C, Takahashi H. Cancer screening programs in Japan: Progress and challenges. J Med Screen. 2024 Mar 28:9691413241240564. doi: 10.1177/09691413241240564. Online ahead of print.
 - 23) Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T. Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep. 2024 Feb 10;39:102649. doi: 10.1016/j.pmedr.2024.102649.
 - 24) Fujiwara M, Yamada Y, Etoh T, Shimazu T, Kodama M, Yamada N, Asada T, Horii S, Kobayashi T, Hayashi T, Ehara Y, Fukuda K, Harada K, Fujimori M, Odawara M, Takahashi H, Hinotsu S, Nakaya N, Uchitomi Y, Inagaki M. feasibility study of provider-level implementation strategies to improve access to colorectal cancer screening for patients with schizophrenia: ACCES S2 (N-EQUITY 2104) trial. Implement Sci Commun. 2024 Jan 4;5(1):2. doi: 10.1186/s43058-023-00541-0.
 - 25) Akiyama M, Ishida N, Takahashi H, Takahashi M, Otsuki A, Sato Y, Saito J, Yaguchi-Saito A, Fujimori M, Kaji Y, Shimazu T; INFORM Study Group. Screening practices of cancer survivors and individuals whose family or friends had a cancer diagnoses—a nationally representative cross-sectional survey in Japan (INFORM Study 2020). J Cancer Surviv. 2023 Jun;17(3):663-676. doi: 10.1007/s11764-023-01367-4.
 - 26) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol. 2023 Jan;9:e2200222. doi: 10.1200/GO.22.00222.
 - 27) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. Cancer Epidemiol. 2023 Feb; 82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.
 - 28) 高橋宏和. がん予防. 健康保険組合保険事業マニユアル Page 87-94 (2023.12)
- 研究分担者：齋藤博
- 1) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D. The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. J Gynecol Oncol, 32(3), e29, 2021.
 - 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023
 - 3) 齋藤博. 大腸がん検診. 月間地域医学 2024; 38: 131-137.
 - 4) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00:e2200222.
 - 5) Bresalier RS, Senore C, Young GP, Allison J, Benamouzig R, Saito H, et al. An efficient strategy for evaluating new non-invasive screening tests for colorectal cancer: the guiding principles. Gut 2023; 0: 1–15. doi:10.1136/gutjnl-2023-329701.
- 研究分担者：佐川元保
- 1) 三友英紀、佐川元保、他. 肺がん検診における胸部X線検査の判定基準に関する読影医の意識調査. 日本がん検診・診断学会誌.29(1): 50-56, 2021.8
 - 2) 小林 健、佐川元保、他. 肺がん検診のための胸部単純X線写真読影演習システムの開発と現状. 肺癌. 61(2): 69-76, 2021.4
 - 3) 加藤 剛、佐川元保、他. 肺がん検診における読影精度向上のために：各読影者の感度／特異度のフィードバックと画像振返り支援の試み. 日本がん検診・診断学会誌. 28(2): 52-59, 2021.5
 - 4) 坂本周三、佐川元保、他. 肺がん検診X線写真における読影医の精度向上のためのROC解析. 日本がん検診・診断学会誌、28(2): 60-67, 2021.5
 - 5) 佐川元保、G. 肺癌の検診、第四章 肺の腫瘍性疾患. 日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医

合同委員会 呼吸器外科テキスト 改訂第2版.
南江堂. 248-250. 2021

- 6) 佐川元保, ほか. 肺がん検診の手引き. 日本肺癌学会. 肺癌取扱い規約 (第8版 [補訂版]). 金原出版. 187-212. 2021
 - 7) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023
 - 8) 佐川元保. 肺がん検診に関わる最近の動き: 肺がん検診における胸部X線読影医要件の設定, 肺がん検診ガイドラインの改訂. *臨床放射線* 68(1): 1-8, 2023
 - 9) 佐川元保, 桜田晃, 芦澤和人, 前田寿美子, 中山富雄, 負門克典, 玄馬顕一, 小林健, 鳥居陽子, 竹中大祐, 丸山雄一郎, 三友英紀, 室田真希子, 梁川雅弘, 澁谷潔, 祖父江友孝, 原田眞雄, 三浦弘之. 肺がん検診ガイドラインの2022年改訂. *肺癌* 62(5): 351-354, 2022
 - 10) 佐川元保. 肺がん検診の要点. *日本医師会雑誌* 151(5): 777-780, 2022
 - 11) 肥田泰三, 坂本周三, 貝瀬恵, 佐藤秀一, 加藤剛, 菅野通, 高橋里美, 松田堯, 渡辺彰, 野津田泰嗣, 佐川元保, 齋藤泰紀. 当法人肺がんCT検診の実績と要精検症例の経過観察期間の検討. *CT検診* 29(2): 53-60, 2022
 - 12) Shimada D, Sagawa M, Seki M. Detection of Mycobacterium avium-intracellulare Complex (MAC) by Bronchial Lavage and the Relationship with Titers of Anti-Glycopeptide Core IgA Antibodies to MAC in Patients with Pulmonary MAC Disease. *Infect Drug Resist* 16: 977-984, 2023
 - 13) Ishibashi N, Tabata T, Nonomura R, Oshima Y, Sasaki T, Mitomo H, Sugawara T, Sagawa M. Efficacy of durvalumab plus chemotherapy in small-cell lung cancer with Lambert-Eaton myasthenic syndrome. *Resp Med Case Rep* 2024, 47:101974, doi.org/10.1016/j.rmcr.2023.101974
 - 14) Ishibashi N, Tabata T, Nonomura R, Oshima Y, Sasaki T, Mitomo H, Sugawara T, Sagawa M. First case report of erlotinib plus ramucirumab treatment for lung carcinoma with EGFR L858R mutation. *Thoracic Cancer* 2023 Oct 14, DOI: 10.1111/1759-7714.15134
- 3) 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 宮城悦子, 藤井多久磨, 高橋宏和, 八重樫伸生, 戸澤晃子, 中山富雄, 青木大輔. HPV検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会誌*. 29 (3). 185-192. 2022.
 - 4) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol.* 34(1), 2023
 - 5) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023
 - 6) Kikuchi Y, Shimada H, Yamasaki F, Yamashita T, Araki K, Horimoto K, Yajima S, Yashiro M, Yokoi K, Cho H, Ehira T, Nakahara K, Yasuda H, Isobe K, Hayashida T, Hatakeyama S, Akakura K, Aoki D, Nomura H, Tada Y, Yoshimatsu Y, Miyachi H, Takebayashi C, Hanamura I, Takahashi H. Clinical practice guidelines for molecular tumor marker, 2nd edition review part 2. *International Journal of Clinical Oncology*. 10.1007/s10147-024-02497-0, Mar.2024.
 - 7) Komatsu H, Ikeda Y, Kawana K, Nagase S, Yoshino K, Yamagami W, Tokunaga H, Kato K, Kimura T, Aoki D. Impact of COVID-19 on gynecological cancer incidence: a large cohort study in Japan. *International journal of clinical oncology* 29(1) 72-77, Jan.2024.
 - 8) Kawana K, Kobayashi O, Ikeda Y, Yahata H, Iwata T, Satoh T, Akiyama A, Maeda D, Hori-Hirose Y, Uemura Y, Nakayama-Hosoya K, Katoh K, Katoh Y, Nakajima T, Taguchi A, Komatsu A, Asai-Sato M, Tomita N, Kato K, Aoki D, Igimi S, Kawana-Tachikawa A, Danny J Schust. Phase I/II randomized clinical trial of an oral therapeutic vaccine targeting HPV for treatment of CIN2/3. *JNCI cancer spectrum* 7(6), Nov.2023.

研究分担者: 青木大輔

- 1) Saitoh E, Saika K, Morisada T, Aoki D. Status of cervical cancer screening among adolescents and young adults (AYA) in Japan. *Int J Clin Oncol.* 27(3): 473 -480, 2022.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D: The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening. baseline characteristics, screening resul

研究分担者: 松田一夫

- 1) 松田一夫. 日本における大腸がんスクリーニングの現状と課題. *INTESTINE.* 25(1):9-13. 2021
- 2) 松田一夫. がん検診の枠組み: 対策型検診と任意型検診. *臨床消化器内科7月増刊号. 消化器がん検診・スクリーニングの手引き.* 36(8): 30-33. 2021
- 3) 松田一夫. 適切ながん検診を支援する取り組み. *日本医師会雑誌.* 151(5): 801-805, 2022
- 4) 松田一夫. 大腸癌はどれだけ見落とされているのかー大腸がんスクリーニングの現状と最近の

トピックス. 臨床消化器内科. 37(6) : 609-614, 2022

- 5) 松田一夫. I. 総論 大腸癌の疫学. 日本臨床増刊号 最新臨床大腸癌学 2023—最新の診断・治療と病態. 2023年 ; 81巻増刊号5 : 7-11.

研究分担者 : 笠原善郎

- 1) 笠原善郎. 第9章 : マンモグラフィ検診の偽陰性と高濃度乳房問題について. 大内憲明/鈴木昭彦. マンモグラフィによる乳がん検診の手引き—精度管理マニュアル(第8版). 日本医事新報社. 東京都. 105-110. 2022
- 2) 笠原善郎. 第10章 : プレスト・アウェアネス. 大内憲明/鈴木昭彦. マンモグラフィによる乳がん検診の手引き—精度管理マニュアル(第8版). 日本医事新報社. 東京都. 111-116. 2022
- 3) 笠原善郎, 加藤久美子. 乳がん検診の要. 日本医師会雑誌 151(5): 781-785, 2022
- 4) 笠原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第12回全国集計報告—事業評価の観点から—乳がん検診の全国集計 2022 (対象 2019年度) 日乳癌検診学会誌 32(1): 67-76, 2023
- 5) 笠原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第12回全国集計報告—事業評価の観点から—乳がん検診の全国集計2022 (対象2019年度), 日本乳癌検診学会誌2023, 32(1) : 67-76 <https://doi.org/10.3804/jjabcs.32.67>

研究分担者 : 中山富雄

- 1) A Yagi, Y Ueda, S Nakagawa, T Masuda, T Miyatake, S Ikeda, H Abe, K Hirai, M Sekine, E Miyagi, T Enomoto, T Nakayama, T Kimura. A nationwide birth year-by-year analysis of effectiveness of HPV vaccine in Japan. Cancer Sci. 112(9): 3691-3698. 2021
- 2) Yoshida N, Mano Y, Matsuda T, Sano Y, Inoue K, Hirose R, Dohi O, Itoh Y, Goto A, Sobue T, Takeuchi Y, Nakayama T, Muto M, Ishikawa H. Complications of colonoscopy in Japan: An analysis using large-scale health insurance claims data. J Gastroenterol Hepatol. 36(10): 2745-2753. 2021
- 3) Hiramatsu K, Ueda Y, Yagi A, Morimoto A, Egawa-Takata T, Nakagawa S, Kobayashi E, Kimura T, Kimura T, Minekawa R, Hori Y, Sato K, Morii E, Nakayama T, Tanaka Y, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Matsumura N, Mandai M, Saito J, Horikoshi Y, Takagi T, Enomoto T, Shimura K. The efficacy of human papillomavirus vaccination in young Japanese girls: the interim results of the OCEAN study Hum Vaccin Immunother. 22: 1-5. 2021
- 4) Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Miyoshi A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kobayashi E, Kimura T, Ito Y, Nakayama T, Nakata K, Mori

shima T, Miyashiro I, Kimura T. Improved long-term survival of corpus cancer in Japan: A 40-year population-based analysis. Int J Cancer. 150(2): 232-242. 2022

- 5) 中山富雄. 低線量 CT 肺がん検診の評価と現状. 最新臨床肺癌学—診断・治療の最前線—日本臨床 80(増刊 8):161-166, 2022
- 6) 中山富雄. 欧州・アジアでの低線量 CT 検診の検診プログラム導入への動き. CT 検診 29(2): 3- 8, 2022
- 7) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者 : 加藤勝章

- 1) 加藤勝章. 胃がん検診の現状と将来. 臨床消化器内科. 36: 68-75. 2021
- 2) 加藤勝章, 浅沼清孝, 千葉隆士, 只野敏弘. CO VID-19 蔓延下での消化器がん検診. 消化器・肝臓内科. 11: 351-358. 2022
- 3) Norita K, Koike T, Saito M, Shinkai H, Ami R, Abe Y, Dairaku N, Inomata Y, Kayaba S, Ishiyama F, Oikawa T, Ohyauchi M, Ito H, Asonuma S, Hoshi T, Kato K, Ohara S, Shimodaira Y, Watanabe K, Shimosagawa T, Masamune A, Iijima K. Long-term endoscopic surveillance for Barrett's esophagus in Japan: Multicenter prospective cohort study. Digestive Endoscopy. 33: 1085-1092. 2021
- 4) Mabe K, Inoue K, Kamada t, Kato K, Kato M, Haruma K. Endoscopic screening for gastric cancer in Japan: Current status and future perspectives. Digestive Endoscopy. 34: 412-419. 2022

研究分担者 : 祖父江友孝

- 1) Yoshida N, Mano Y, Matsuda T, Sano Y, Inoue K, Hirose R, Dohi O, Itoh Y, Goto A, Sobue T, Takeuchi Y, Nakayama T, Muto M, Ishikawa H. Complications of colonoscopy in Japan: An analysis using large-scale health insurance claims data. J Gastroenterol Hepatol. 36(10): 2745-2753. 2021

研究分担者 : 小川俊夫

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023
- 2) Ogawa T et al. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Global Oncology. 2023 :9, e2200222 (<https://doi.org/10.1200/JCO.2023.9.2200222>)

研究分担者 祖父江 友孝

- 1) Yoshida N, Mano Y, Matsuda T, Sano Y, Inoue K, Hirose R, Dohi O, Itoh Y, Goto A, Sobue T, Takeuchi Y, Nakayama T, Muto M, Ishikawa H. Complications of colonoscopy in Japan: An analysis using large-scale health insurance claims data. *J Gastroenterol Hepatol.* 36(10): 2745-2753. 2021

研究分担者：立道昌幸

- 1) 立道昌幸, 深井航太, 古屋佑子, 中澤祥子. 職域におけるがん検診の精度管理に関する課題と解決のための提言, 日本消化器がん検診学会 :2024 : 1-9 : doi: 10.11404/jsgcs23011

研究分担者：齊藤英子

- 1) Saitoh E, Saika K, Morisada T, Aoki D : Status of cervical cancer screening among adolescents and young adults (AYA) in Japan. *Int J Clin Oncol.* 27(3): 473-480. 2022.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D :The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol,* 32 (3): e29. 2021.
- 3) 齊藤英子、雑賀公美子、森定 徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. HPV検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会誌,* 29 (3):185-192. 2022.
- 4) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol.* 34(1), 2023
- 5) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023
- 6) 佐々木寛, 植松孝悦, 明石定子, 植田政嗣, 浦井典子, 大村峯夫, 木口一成, 齊藤英子, 小田瑞恵, 鈴木美香, 杵本朋子, 中井昌弘, 原田成美, 横尾郁子. 2021 年度 女性のための健診・予防医療のあり方検討委員会 子宮頸がん検診に関するアンケート調査結果ー. *人間ドック.* 37(1): 83-103, 2022

研究分担者：森定徹

- 1) Saitoh E, Saika K, Morisada T, Aoki D : Status of cervical cancer screening among adolescents and young adults (AYA) in Japan. *Int J Clin Oncol.* 27(3): 473-480. 2022.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, M

iyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D :The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol,* 32 (3): e29. 2021.

- 3) 齊藤英子、雑賀公美子、森定 徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. HPV検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会誌,* 29 (3):185-192. 2022.
- 4) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol.* 34(1), 2023
- 5) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023

研究分担者：雑賀公美子

- 1) Saito E, Saika K, Morisada T, Aoki D. Status of cervical cancer screening among adolescents and young adults (AYA) in Japan. *Int J Clin Oncol* 2022; 27:473-480.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D :The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol,* 32 (3): e29. 2021.
- 3) 齊藤英子、雑賀公美子、森定 徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. HPV検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会誌,* 29 (3):185-192. 2022.
- 4) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol.* 34(1), 2023
- 5) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023
- 6) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T.

Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者：細野寛代
なし

研究分担者：町井涼子

- 1) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. 厚生指標. in press
- 2) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. Journal of health and welfare statistics 69 (8): 14-22, 2022
- 3) Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T. Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep. 2024 Feb 10;39:102649. doi: 10.1016/j.pmedr.2024.102649.
- 4) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. Cancer Epidemiol. 2023 Feb;82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.

2. 学会発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Takahashi H, Machii R. Impact of State of Emergency Declaration for COVID-19 on Cancer Screening Behavior in Japan. Takahashi H, Machii R. 13th European Public Health Conference. 2021
- 2) 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診およびがん診療への影響. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会 合同シンポジウム 2022年2月Web開催
- 3) 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診およびがん診療への影響. 日本がん登録協議会・日本医師会共催 シンポジウム 2022年1月Web開催
- 4) 町井涼子、高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. 第80回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム 2021年12月東京
- 5) 町井涼子、上原慶太、沖山陽子、比嘉貢、高橋宏和. 県主導によるがん検診の精検受診率向上策の検討. 第80回日本公衆衛生学会総会 ポスター 2021年12月 東京
- 6) 高橋宏和. がん検診の適切な実施について2021年度 産業保健情報・政策研究会 自由集会 シンポジウム 2021年12月 Web開催
- 7) 高橋宏和. 職域検診の現状と方向性. 第31回日本乳癌検診学会学術総会 ワークショップ 2021年11月 京都
- 8) 高橋宏和. 海外における乳房構成通知の問題点と対応策. 第31回日本乳癌検診学会学術総会 パネルディスカッション 2021年11月 京都
- 9) 松本綾希子、高橋宏和、角田博子、鈴木昭彦、植松孝悦、笠原善郎. 一般女性のコロナ禍での乳がん検診受診に関する意識調査. 第47回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会 2021年10月 Web開催
- 10) 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. 第28・29回日本がん検診・診断学会総会 特別講演 2021年9月 Web開催
- 11) 雑賀公美子、町井涼子、高橋宏和. 胃がん検診の適正な受診間隔と受診勧奨のあり方とは 胃がんエックス線および内視鏡検診の市町村での実施状況について. 第60回日本消化器がん検診学会総会, 東京/オンライン, 4-6, 2021/06.
- 12) 河野可奈子、雑賀公美子、高橋宏和、齊藤英子、森定 徹、青木大輔. 子宮頸がん検診のプロセス指標 (精検受診率) と市町村チェックリスト実施率の現状報告. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, オンライン, 11-12, 2021/09.
- 13) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、八重樫伸生、青木大輔. HPV検査による子宮頸がん検診の検討における細胞診の処理法について. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会, 鳥取県米子市/Hybrid, 2021/11.
- 14) 森定 徹、雑賀公美子、齊藤英子、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、小林陽一、八重樫伸生、青木大輔. わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/09.
- 15) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. 我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? Organized screening? -HPV検査単独法を念頭においた子宮頸がん検診の体制について-. 第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会(Web), 2021/09.
- 16) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、斎藤博、青木大輔. 子宮頸がん検診プログラムの効果を上げるための精密検査受診向上の対応策の検討. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 大阪府大阪市/Hybrid, 2021/07.
- 17) Takahashi H. Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. World Cancer Congress 2022, Geneva , 2022/10/18
- 18) 高橋宏和. がん検診事業評価の現状と方向性について. 第 32 回日本乳癌検診学会学術総会 シンポジウム, 浜松, 2022/11/12
- 19) 高橋宏和. がん検診の適切な受け方. 第 60 回日本癌治療学会学術集会 市民公開講座, 高崎, 2022/10/23
- 20) 町井涼子、高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症による住民がん検診の受診者数への影響. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 口演, 甲府 ,2022/10/9
- 21) 岡田結子、高橋宏和、雑賀久美子、渋谷克彦. 国内契約健診機関の「がん検診精度管理」実態把握と職域における課題の検討. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 口演, 甲府 ,2022/10/9
- 22) 齋藤英子、堀芽久美、大久保亮、小手森綾香、

- 街勝憲、清水陽一、高橋宏和. 乳がんサバイバーにおける身体活動介入の費用対効果：マイクロシミュレーション研究. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 ポスター, 甲府, 2022/10/8
- 23) 高橋宏和. がん検診精度管理における基準値の変更について. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 要望講演 Web, 2022/9/2
- 24) 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. 第 61 回日本消化器がん検診学会総会 パネルディスカッション, Web, 2022/6/10
- 25) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (20231216) Tokyo
- 26) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Cancer Screening Network 2023 (20230620) Turin
- 27) 高橋宏和. がん検診事業の現状と方向性. 第33回日本乳癌検診学会学術総会 シンポジウム (20231125) 福岡
- 28) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回公衆衛生学会総会 ポスター (20231102) つくば
- 29) 宮澤仁、町井涼子、高橋宏和、榎本建志、中山富雄. 新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第82回公衆衛生学会総会 ポスター (20231102) つくば
- 30) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会 口演 (20231015) 東京 一橋講堂

研究分担者：齋藤博

- 1) First-round result of cervical cancer screening: A population-based cohort study assessing the effectiveness of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. 第73回日本産科婦人科学会学術講演会 (新潟県新潟市・Hybrid), 2021/04.
- 2) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、齋藤博、青木大輔. 子宮頸がん検診プログラムの効果を上げるための精密検査受診向上の対応策の検討. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(大阪府大阪市・Hybrid), 2021/07.
- 3) 雑賀公美子、齊藤英子、齋藤博. 子宮頸がん検診の精検受診の課題 自治体格差や年齢格差について. 第 37 回日本女性医学学会学術集会, 2022/11/12-13

研究分担者：佐川元保

- 1) Sasaki T, Sagawa M, et al. Study of the number of courses required to obtain the first response to immune checkpoint inhibitor (+chemo) therapy for Lung Cancer. APSR 2021: The 25th Congress of the Asian Pa-

cific Society of Respiriology. Kyoto, Japan. 2021/11

- 2) 佐川元保. 肺がん検診にかかわる最近の動き：X線読影医の基準、喀痰標準細胞、読影判定基準、ガイドライン改訂. 肺がん検診読影セミナー2021、第62回日本肺癌学会学術集会. 横浜. 2021/11
- 3) 佐川元保. 非/軽喫煙者に対する5年に1回のCT検診の有効性評価のための無作為化比較試験：The JECS Study. シンポジウム4：肺癌検診のグローバルリズムと将来性, 第62回日本肺癌学会学術集会, 横浜. 2021/11
- 4) 佐川元保. CT 肺がん検診を対策型検診とするためには？：有効性のエビデンスとガイドライン改訂. 第 30 回日本がん検診 診断学会総会. 2022/9/28. 東京. 国内、口頭.
- 5) 宮澤 仁、相川小夜、須藤恵美、小原愛美、中山富雄、佐川元保. JECS 研究における追跡調査の現状と課題：第二報 (2022 年度住民票照会結果進捗報告). 第 30 回日本 CT 検診学会学術集会, 2023/2/18、熊本. 国内、口頭.
- 6) 佐々木高信、吉村 成央、野々村遼、大島穰、三友英紀、石橋直也、菅原崇史、田畑俊治、手塚則明、佐川元保、近藤 丘. Pembrolizumab 単剤の長期治療成績の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会、2022/12/1-3、福岡. 国内、口頭.
- 7) 石橋直也、田畑俊治、野々村遼、大島穰、佐々木高信、三友英紀、菅原崇史、佐川元保、近藤 丘. 病理病期別にみた開胸時洗浄細胞診陽性例の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会、2022/12/1-3、福岡. 国内、口頭.
- 8) 佐川元保. 肺がん検診ガイドライン2022への改訂 —その背景と解説—. 第64回日本肺癌学会学術集会. 2023. 11. 2. 千葉.
- 9) 石橋直也、田畑俊治、野々村遼、大島穰、佐々木高信、三友英紀、菅原崇史、佐川元保. 免疫チェックポイント阻害薬使用の有無がラムシルマブ+ドセタキセル併用療法へ与える影響の検討. 第64回日本肺癌学会学術集会、2023.11.3、千葉
- 10) 坂本周三、肥田泰三、佐藤亜希子、加藤剛、菅野通、八重柏政宏、高橋里美、桜田晃、野津田泰嗣、佐川元保、岡田克典、渡辺彰、齋藤泰紀. 当法人における胸部X線画像の症例集を利用したCADの精度評価. 第64回日本肺癌学会学術集会、2023.11.2、千葉

研究分担者：青木大輔

- 1) Quality assurance for the cervical cancer screening program in Japan. Kono K, Saika K, Saitoh E, Nakayama T, Morisada T, Aoki D. The 7th Biennial Meeting of the Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2021), Bangkok, Thailand/Virtual Conference, 2021/11.
- 2) First-round result of cervical cancer screening: A population-based cohort study assessing the effectiveness of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. 第73回日本産科婦人科学会学術講演会, 新潟県新潟市/Hybrid, 2021/04.
- 3) 子宮頸がん検診の精度管理と最近の話題. 青木

- 大輔. 令和3年度長崎県がん検診精度管理医師等研修会(Web), 2022/03.
- 4) 子宮頸部上皮内病変に対して蒸散術後に子宮頸がんを診断された18例の検討. 田中郁百、西尾浩、岩田卓、大野あゆみ、谷本慧子、横田めぐみ、田中守、青木大輔. 第400回東京産科婦人科学会例会, 東京都千代田区/Hybrid, 2022/02.
 - 5) わが国の子宮頸がん検診事業における精度管理の課題. 青木大輔. 福岡医学会協賛 特別講演会(Web), 2022/02.
 - 6) 子宮頸がん検診のプロセス指標 (精検受診率) と市町村チェックリスト実施率の現状報告. 河野可奈子、雑賀公美子、高橋宏和、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(Web), 2021/09.
 - 7) HPV検査による子宮頸がん検診の検討における細胞診の処理法について. 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、八重樫伸生、青木大輔. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会, 鳥取県米子市/Hybrid, 2021/11.
 - 8) HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況. 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会, 鳥取県米子市/Hybrid, 2021/11.
 - 9) わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 森定徹、雑賀公美子、齊藤英子、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、小林陽一、八重樫伸生、青木大輔. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/09.
 - 10) 我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? Organized screening? -HPV検査単独法を念頭においた子宮頸がん検診の体制について-. 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. 第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会(Web), 2021/09.
 - 11) 子宮頸がん検診プログラムの効果を上げるための精密検査受診向上の対応策の検討. 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、齋藤博、青木大輔. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 大阪府大阪市・Hybrid, 2021/07.
 - 12) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第61 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
 - 13) 青木大輔:招待講演 HPV ワクチンの現況. 新宿区医師会 HPV ワクチン学術講演会 (Web), 2022/11
 - 14) 青木大輔:基調講演日本の子宮頸がん検診のあり方. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜・Web), 2022/10
 - 15) 青木大輔: 子宮頸がん健診における HPV 検査導入に際して. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 (千葉・Web), 2022/9
 - 16) 青木大輔:招待講演 HPV ワクチンの現況. 第 10 回玉川・世田谷区産婦人科医会合同学術講演会 ~医師・コメディカルの皆様へ~ (Web), 2022/7
 - 17) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10.
 - 18) 西尾 浩, 岩田 卓, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診においてAGC と診断された症例の最終診断とその問題点. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京・Web), 2022/ 6
 - 19) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔: 「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会.2024/3.
 - 20) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
 - 21) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
 - 22) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
 - 23) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology.Dec.2023.
 - 24) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society.Nov.2023.
 - 25) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第62回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
 - 26) 森定徹、寺本勝寛、端晶彦、高野浩邦、原田智佳子、中川陽子、竹綱正典、吉村一榮、手良向聡、小林 陽一、佐々木寛、青木大輔: HPV検査導入後の細胞診の役割 HPV検診を検証するRCTの中間報告とHPV陽性者のトリアージとしての細胞診. 第62回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
 - 27) 青木大輔. 今後の子宮頸がん検診プログラムの動向とそのマネージメント.第32回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
 - 28) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第32回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
 - 29) 齊藤英子、青木大輔、雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補につ

- いての文兼的検索.第13回国際医療福祉大学学会学術大会.2023/09.
- 30) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 31) 大野あゆみ、西尾博、椎名美季、谷本慧子、横田めぐみ、岩田卓、山上亘、青木大輔. 初期子宮頸がんに対し広汎術式を施行した症例の術前QOL調査.第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 32) 松田理沙、西尾浩、松井友哉、椎名美季、大野あゆみ、谷本慧子、横田めぐみ、岩田卓、山上亘、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮頸部摘出術後の子宮の萎縮率に関する検討.第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 33) 春日義史、長谷川慶太、葉室明香、玉井桃、福岡優花、田中雄也、大谷利光、池ノ上学、青木大輔、田中守：広汎子宮頸部摘出術後妊娠管理および周産期予後の関する実態調査.第145回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会.2023/06.
 - 34) 松田理沙、西尾浩、松井友哉、椎名美季、大野あゆみ、谷本慧子、横田めぐみ、春日義史、岩田卓、山上亘、田中守、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮頸部提出術後の月経変化と妊娠成績に関する検討.第145回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会.2023/06.
 - 35) 西尾浩、山上亘、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮全摘出術の術式の要点と問題点.第145回関東連合産科婦人科学会・総会.2023/6.
 - 36) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
 - 37) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
 - 38) 齊藤英子、小田瑞恵、木口一成、佐々木寛、青木大輔. 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況一チェックリスト充足率からの検討一. 第75回 日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
 - 39) Matsuda R, Nishio H, Shiina M, Iwata T, Ohno A, Yokota M, Tanaka M, Aoki D. The diagnostic accuracy of intraoperative frozen examination of abdominal radical trachelectomy for early-stage cervical cancer in a series of 329 cases.第75回日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
 - 40) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International Papillomavirus Conference. Apr.2023.
- 研究分担者：松田一夫
- 1) 松田一夫. 大腸内視鏡検診における精度管理指標として何が適切か. 第60回日本消化器がん検診学会総会 附置研究会1「大腸がん検診精度管理検討研究会」大腸内視鏡検診の精度管理評価指標,(Web),2021/06.
 - 2) 松田一夫. 日本の大腸がん検診が目指すべきもの～organized screening～.第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会 シンポジウム1「我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? organized screening?」, (Web), 2021/09
 - 3) 松田一夫. 日本における大腸がん検診の現状と課題～東海・北陸地区の実態を含めて～. 第50回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会 特別企画講演「消化器がん検診東海北陸地区の50年の歩み」,(Web), 2021/09
 - 4) 松田一夫. 第61回日本消化器がん検診学会総会 シンポジウム「ICTを駆使したがん検診のこれから」 司会. 2022/6/10 (Webにて).
 - 5) 松田一夫. 日本におけるTCS 検診導入への期待とその意義：「欧米との比較も含めて」. 第61回日本消化器がん検診学会総会 ワークショップ「きたるべき大腸内視鏡検診を見据えて」 基調講演とコメンテーター. 2022/6/11 (Webにて).
 - 6) 松田一夫. 本邦における便潜血検査を用いた大腸がん検診の現状と課題. 第60回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2022) パネルディスカッション4「死亡率減少を目指した大腸がん検診」 基調講演. 2022/10/27
 - 7) 松田一夫. 日本の大腸がん死亡を減らすために私たちは何をすべきか? 第51回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会 特別講演. 2022/11/26
 - 8) 松田一夫. 日本における内視鏡による大腸がん検診導入への期待～欧米との比較を含めて～. 第62回日本消化器がん検診学会総会パネルディスカッション2「大腸内視鏡検診導入の動向と実現可能な検診アルゴリズムを考える」基調講演. 2023年6月30日.
 - 9) 松田一夫. 第62回日本消化器がん検診学会総会. 教育講演「職域におけるがん検診の精度管理と事業評価の考え方について」 司会. 2023年6月30日.
 - 10) 松田一夫. 日本の大腸癌死亡率をさらに減少させるには. 第61回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2023) ワークショップ6「より効果的な大腸がん検診の実現に向けて」 特別発言. 2023年11月2日.
 - 11) 松田一夫. 日本の大腸がん死亡率は、なぜ諸外国並みに減少しないのか?～私たちが今すぐ為すべきこと～ 第54回日本消化器がん検診学会中国四国地方会 特別講演 2023年11月25日.

研究分担者：笠原善郎

- 1) 笠原善郎. QIから見た全国集計委員会の活動について. 第29回日本乳癌学会学術総会. 横浜市, 2021/07
- 2) 笠原善郎. コロナ時代の乳がん検診のあり方を考えるー新型コロナ感染症が乳がん検診受診行動に与えた影響についてー 第29回日本がん検診・診断学会(Web), 2021/09.
- 3) 笠原善郎. 新型コロナ感染症流行に伴う対策型検診への対応指針 第47回日本乳癌甲状腺超音波診断会議.(Web), 2021/10.
- 4) 笠原善郎. 偽陰性の観点から高濃度乳房を理解しよう 第31回日本乳癌検診学会学術総会, 京都市,2021/11

- 5) 第 12 回全国集計報告 全国集計 2019 年版 日本乳癌検診学会全国集計委員会 笠原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第 32 回日本乳癌検診学会学術総会 2022/11/12 浜松 国内、口頭
- 6) 『がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針』の改正とブレスト・アウェアネス、高濃度乳房について 笠原善郎 第 30 回がん検診診断学会総会 2022/9/29 国内、WEB 口頭
- 7) 笠原善郎. 乳がん検診に関する最近の話題と『がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針』の改正点について第 30 回がん検診診断学会総会 pre-web seminar 2022/7-9 国内 WEB 公開 口頭
- 8) 笠原善郎、安藝史典、宇佐美伸、大村東生、隈浩司、白岩美咲、高橋宏和、中嶋啓雄、増田裕行、森田孝子、山口美樹、山口由美. 第13回乳癌検診学会全国集計報告 2020年度版 (292 施設) 事業評価の観点から、第33回 日本乳癌検診学会学術総会 福岡国際会議場 2023/11/15、国内、口頭

研究分担者：中山富雄

- 1) 中山富雄. 肺の扁平上皮癌の罹患の推移と喀痰細胞診の進むべき方向. 第60回日本臨床細胞学会秋季大会.シンポジウム9 喀痰細胞診の進むべき方向. Nov 21, 2021. 米子市、日本臨床細胞学会誌. 補刷2号 : p411. 2021
- 2) 中山富雄. 血液・尿一滴検診の課題.第28回・29回日本がん検診診断学会総会学術集会. シンポジウム 1 我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? organized screening? Sep 11, 2021. オンライン、日本がん検診・診断学会誌2021 ; 29(2) : p36
- 3) 中山富雄. コロナとがん検診 全国のがん検診の課題と提案.第28回・29回日本がん検診診断学会総会学術集会. Sep 12, 2021. オンライン、日本がん検診・診断学会誌2021 ; 29(2) : p28
- 4) 中山富雄. 欧州・アジアでの検診プログラム導入への動き. 第 29 回日本 CT 検診学会学術集会. ラウンドテーブルディスカッション,2022/2/25,仙台
- 5) 中山富雄. がん検診における細胞診の意義.一子宮頸がん、肺がんを中心に-. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会要旨講演,2022/9/2,千葉
- 6) 中山富雄. Sustainable な肺がん検診制度管理体制の整備—How to 症例検討会. 第 63 回日本肺癌学会学術集会. 肺がん検診読影セミナー, 2022/12/3, 福岡
- 7) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023/11/2,筑波.

研究分担者：加藤勝章

- 1) 加藤勝章. エビデンス確立後、対策型検診導入までに必要だった準備と現状について :胃がん内視鏡検診での先行事例第29回日本CT検診学会. 仙台市. 2022/02
- 2) 加藤勝章. がん検診の基本的な考え方, 愛知県

胃がん検診従事者研修会, 2023年1月.

- 3) 加藤勝章. 本邦における胃がん検診精度管理の現状と将来への取り組み, 日本消化器がん検診学会・東海北陸支部 消化管撮影技術向上セミナー, 2023年1月.
- 4) 加藤勝章. 本邦における胃がん検診精度管理の現状と将来への取り組み 人間ドック学会・地域交流セミナー, 2023年4月.
- 5) 加藤勝章. 集団のパラダイムシフト—効率的で効果的な消化器がん対策を目指して—, 第63回日本消化器がん検診学会総会・会長講演, 2023年6月.
- 6) 千葉隆士、只野敏浩、浅沼清孝、加藤勝章. 胃がん罹患リスク予測における胃炎診断の意義 第63回日本消化器がん検診学会総会, 2023年6月
- 7) 加藤勝章. 対策型胃がん検診としての胃内視鏡検査における精密検査と要否判定の考え方 第64回人間ドック学会学術大会, 2023年9月.
- 8) 浅沼清孝、千葉隆士、只野敏浩、加藤勝章. 宮城県の胃内視鏡検診における胃炎と診断された受診者の対応について, 日本消化器がん検診学会 第61回東北地方会, 2023年12月.

研究分担者：祖父江友孝

なし

研究分担者：小川俊夫

- 1) 小川俊夫. 職域がん検診の最前線：研究者の立場から. 第 62 回近畿産業衛生学会シンポジウム,2022/10/22 大阪
- 2) 工藤孝典、小川俊夫、祖父江友孝. 大腸がん検診及び精密検査受診ががん医療費に与える影響. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 2022/10/8,山梨
- 3) 小川俊夫、祖父江友孝. レセプトを用いたがん検診のがん医療費に与える影響に関する一考察. 第 95 回日本産業衛生学会総会, 2022/5/26, 高知
- 4) 小川俊夫. 保険者を中心とした職域がん検診の精度管理. 第96回日本産業衛生学会シンポジウム5「今こそ産業保健に求められる職域のがん対策」(2023年5月10日、栃木県宇都宮市・ライトキューブ宇都宮)
- 5) 小川俊夫. レセプトデータを用いたがん検診精度管理. 第61回日本癌治療学会教育シンポジウム「ビッグデータとがん医療」(2023年10月20日、神奈川県横浜市・パシフィコ横浜)

研究分担者：立道昌幸

- 1) 立道昌幸. 「職域におけるがん検診の精度管理と事業評価の考え方について」, 第62回日本消化器がん検診学会総会 教育講演1

研究分担者：齊藤英子

- 1) Kono K, Saika K, Saitoh E, Nakayama T, Morisada T, Aoki D. Quality assurance for the cervical cancer screening program in Japan, The 7th Biennial Meeting of the Asian Society of Gynecologic Oncology(ASGO 2021)(Bangkok, Thailand・Virtual Conference), 2021/11.
- 2) Morisada T, Saika K, Saitoh E, Kono K, Yokota M, Nishio H, Nakamura M, Iwata T,

- Saito H, Tanaka M, Aoki D. First-round result of cervical cancer screening. A population-based cohort study assessing the effectiveness of cytology and human papilloma virus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. 第73回日本産科婦人科学会学術講演会 (新潟県新潟市・Hybrid), 2021/04.
- 3) 河野可奈子、雑賀公美子、高橋宏和、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 子宮頸がん検診のプロセス指標 (精検受診率) と市町村チェックリスト実施率の現状報告. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (Web), 2021/09.
 - 4) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、八重樫伸生、青木大輔. HPV検査による子宮頸がん検診の検討における細胞診の処理法について. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会 (鳥取県米子市・Hybrid). 2021/11.
 - 5) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況. 第60回日本臨床細胞学会秋期大会 (鳥取県米子市・Hybrid), 2021/11.
 - 6) 森定徹、雑賀公美子、齊藤英子、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、小林陽一、八重樫伸生、青木大輔. わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会, 2021/09.
 - 7) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. 我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? Organized screening? - HPV検査単独法を念頭においた子宮頸がん検診の体制について - 第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会(Web), 2021/09.
 - 8) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、斎藤博、青木大輔. 子宮頸がん検診プログラムの効果を上げるための精密検査受診向上の対応策の検討. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(大阪府大阪市・Hybrid), 2021/07.
 - 9) 雑賀久美子、齊藤英子、斎藤博: 長野県下での子宮頸がん検診の精検受診の課題 - 自治体格差や年齢格差について -. 第37回日本女性医学学会総会. 2022/11
 - 10) 森定徹、河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、寺本勝寛、高野浩邦、小林陽一、佐々木寛、青木大輔: HPV検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV陽性者の管理. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
 - 11) 齊藤英子、雑賀公美子、斎藤博: 神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について. 第31回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会. 2022/10
 - 12) 齊藤英子、雑賀公美子、小田瑞恵、木口一成、植松孝悦、佐々木寛、青木大輔: 検診機関における検診委託元別のがん検診精度管理状況 - 子宮頸がん検診・乳がん検診での検討 -. 第30回日本がん検診・診断学会総会. 2022/9
 - 13) 小林沙央里、齊藤英子、富樫理子、桂研一郎: 子宮頸がん検診における検診間隔についての受診者の記憶の妥当性の検討. 第63回日本人間ドック学会学術集会. 2022/9
 - 14) 森定徹、河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、寺本勝寛、高野浩邦、小林陽一、佐々木寛、青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10
 - 15) 齊藤英子: HPV単独法 (HPV primary screening) を念頭に置いた精度管理 (マネジメント) の課題. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6
 - 16) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔. 「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会. 2024/3.
 - 17) 富田圭祐、齊藤英子、五十嵐歩惟、磯前有香、永吉陽子、上田和、桂研一郎. 当院での子宮頸がん検診における要精検者の精検受診率向上のためのシームレス勧奨. 第38回日本女性医学学会学術集会. 2023/12.
 - 18) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec. 2023.
 - 19) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec. 2023.
 - 20) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec. 2023.
 - 21) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology. Dec. 2023.
 - 22) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society. Nov. 2023.
 - 23) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔: HPV検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第62回日本臨床細胞学会秋期大会. 2023/11.
 - 24) 齊藤英子: がん検診の評価指標の「可視化プロジェクト」 - 精検受診率について -. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023/10
 - 25) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会・総会. 2023/10.
 - 26) 小田瑞恵、齊藤英子、佐々木寛: 子宮頸がん検診におけるHPV検査の役割 - HPV検査導入に

- に向けたアルゴリズムの試案一. 第32回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
- 27) 齊藤英子：職域がん検診はどう変わるか、変えていくか？職域におけるがん検診に関するマニュアルに基づく検診実施機関の精度管理. 第64回日本人間ドック学会学術大会.2023/09.
 - 28) 齊藤英子、青木大輔、雑賀公美子：子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文兼的検索.第13回国際医療福祉大学学会学術大会.2023/09.
 - 29) 磯前有香、齊藤英子、五十嵐歩惟、桂研一郎：子宮頸がん検診要精検者における確実な精検受診実現のためのワンストップ勧奨. 第64回日本人間ドック学会学術大会.2023/09.
 - 30) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 31) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
 - 32) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
 - 33) 齊藤英子、木口一成、小田瑞恵、植田政嗣、佐々木寛：検診機関用チェックリスト調査から見える子宮頸がん検診での細胞診精度管理の課題. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
 - 34) 齊藤英子、小田瑞恵、木口一成、佐々木寛、青木大輔. 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況ーチェックリスト充足率からの検討ー. 第75回 日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
 - 35) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International Papillomavirus Conference. Apr.2023.

研究分担者：森定徹

- 1) Kono K, Saika K, Saitoh E, Nakayama T, Morisada T, Aoki D. Quality assurance for the cervical cancer screening program in Japan The 7th Biennial Meeting of the Asian Society of Gynecologic Oncology(ASGO 2021)(Bangkok, Thailand・Virtual Conference), 2021/11.
- 2) Morisada T, Saika K, Saitoh E, Kono K, Yokota M, Nishio H, Nakamura M, Iwata T, Saito H, Tanaka M, Aoki D. First-round result of cervical cancer screening. A population-based cohort study assessing the effectiveness of cytology and human papilloma virus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. 第73回日本産科婦人科学会学術講演会(新潟県新潟市・Hybrid), 2021/04.
- 3) 森定徹.子宮頸がん予防としてのHPV検査を用いた検診について.第307回 東京産婦人科医会臨床研究会(東京都新宿区), 2022/03.
- 4) 河野可奈子、雑賀公美子、高橋宏和、齊藤英子、森定徹、青木大輔.子宮頸がん検診のプロセス指標(精検受診率)と市町村チェックリスト実施率の現状報告. 第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(Web), 2021/09.
- 5) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、八重樫伸生、青木大輔. HPV検査による子宮頸がん検診の検討における細胞診の処理法について.第60回日本臨床細胞学会秋期大会(鳥取県米子市・Hybrid). 2021/11.
- 6) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況.第60回日本臨床細胞学会秋期大会, 鳥取県米子市/Hybrid. 2021/11.
- 7) 森定徹、雑賀公美子、齊藤英子、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、小林陽一、八重樫伸生、青木大輔. わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討.第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会. 2021/09.
- 8) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. 我が国のがん検診はどの方向に向かうのか? New technology? Organized screening? - HPV検査単独法を念頭においた子宮頸がん検診の体制について.第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会,(Web), 2021/09.
- 9) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
- 10) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10
- 11) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔. 「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会.2024/3.
- 12) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 13) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 14) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society. Nov.2023.

- 15) 河野可奈子、雑賀公美子、齋藤英子、森定徹、青木大輔：HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況。第62回日本臨床細胞学会秋期大会。2023/11.
 - 16) 森定徹、寺本勝寛、端晶彦、高野浩邦、原田智佳子、中川陽子、竹綱正典、吉村一榮、手良向聡、小林 陽一、佐々木寛、青木大輔：HPV検査導入後の細胞診の役割 HPV検診を検証するRCTの中間報告とHPV陽性者のトリアージとしての細胞診。第62回日本臨床細胞学会秋期大会。2023/11.
 - 17) 齋藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔。日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第32回日本婦人科がん検診学会・総会。2023/10.
 - 18) 齋藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔。地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題。第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2023/07.
 - 19) 岡田結生子、齋藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和。がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み。第31回日本がん検診・診断学会総会。2023/06.
 - 20) 河野可奈子、雑賀公美子、齋藤英子、森定徹、青木大輔。住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴。第64回日本臨床細胞学会総会春期大会。2023/06.
- 井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔。我が国のがん検診はどの方向に向かうのか？ New technology? Organized screening? - HPV検査単独法を念頭においた子宮頸がん検診の体制について。第28回・第29回日本がん検診・診断学会総会,(Web), 2021/09.
- 7) 齋藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、齋藤博、青木大輔。子宮頸がん検診プログラムの効果を上げるための精密検査受診向上の対応策の検討。第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，大阪府大阪市/Hybrid, 2021/07.
 - 8) 雑賀公美子，齋藤英子，齋藤博：長野県下での子宮頸がん検診の精検受診の課題 -自治体格差や年齢格差について-。第 37 回日本女性医学学会総会。2022/11
 - 9) 森定徹，河野可奈子，雑賀公美子，齋藤英子，寺本勝寛，高野浩邦，小林陽一，佐々木寛，青木大輔：HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理。第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会。2022/11
 - 10) 齋藤英子，雑賀公美子，齋藤博：神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について。第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会。2022/10/16
 - 11) 齋藤英子，雑賀公美子，小田瑞恵，木口一成，植松孝悦，佐々木寛，青木大輔：検診機関における検診委託元別のがん検診精度管理状況 -子宮頸がん検診・乳がん検診での検討 -。第 30 回日本がん検診・診断学会総会。2022/9
 - 12) 森定徹，河野可奈子，雑賀公美子，齋藤英子，寺本勝寛，高野浩邦，小林陽一，佐々木寛，青木大輔：実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題。第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会。2022/6/10
 - 13) Okada Y, Takahashi H, Saika K, Shibuya K. プロセス指標を用いた職域におけるがん検診精度管理について，第 5 回産業保健情報・政策研究会，2022/5/2
 - 14) 雑賀公美子，齋藤 英子，齋藤 博。子宮頸がん検診の精検受診の課題 自治体格差や年齢格差について，第 37 回日本女性医学学会学術集会，2022/11/12-13
 - 15) 雑賀公美子。精度管理なきがん検診はがん対策にあらざる近畿圏域における胃がん・大腸がん検診の『いま』-the path to the future-，第52回日本消化器がん検診学会近畿地方会，8月，2023.
 - 16) 齋藤英子，雑賀公美子，高橋宏和，森定徹，青木大輔。地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題，第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，7月，2023.
 - 17) 雑賀公美子。精度管理なきがん検診はがん対策にあらざる，第31回日本がん検診・診断学会総会，6月，2023.
 - 18) 岡田結生子，齋藤英子，雑賀公美子，森定徹，青木大輔，高橋宏和。がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み 子宮頸がん検診を例に，第31回日本がん検診・診断学会総会，6月，2023.
 - 19) 齋藤英子，雑賀公美子，森定徹，中山富雄，青

研究分担者：雑賀公美子

- 1) 雑賀公美子、町井涼子、高橋宏和。胃がん検診の適正な受診間隔と受診勧奨のあり方とは 胃がんエックス線および内視鏡検診の市町村での実施状況について。第60回日本消化器がん検診学会総会，東京（東京）/オンライン，4-6 6月，2021.
- 2) 河野可奈子、雑賀公美子、高橋宏和、齋藤英子、森定徹、青木大輔。子宮頸がん検診のプロセス指標（精検受診率）と市町村チェックリスト実施率の現状報告。第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，オンライン，11-12，2021/09.
- 3) 齋藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、八重樫伸生、青木大輔。HPV検査による子宮頸がん検診の検討における細胞診の処理法について。第60回日本臨床細胞学会秋期大会，鳥取県米子市/Hybrid，2021/11.
- 4) 河野可奈子、雑賀公美子、齋藤英子、森定徹、青木大輔。HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況。第60回日本臨床細胞学会秋期大会，鳥取県米子市/Hybrid，2021/11.
- 5) 森定徹、雑賀公美子、齋藤英子、河野可奈子、戸澤晃子、高橋宏和、中山富雄、宮城悦子、藤井多久磨、小林陽一、八重樫伸生、青木大輔。わが国におけるHPV検査を用いた子宮頸がん検診のアルゴリズムの検討。第30回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会，2021/09.
- 6) 齋藤英子、雑賀公美子、森定徹、宮城悦子、藤

木大輔：「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会.2024/3.

- 20) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 21) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 22) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 23) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 24) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society.Nov.2023.
- 25) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔：HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第62回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
- 26) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔：日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第32回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
- 27) 齊藤英子、青木大輔、雑賀公美子：子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文兼的検索.第13回国際医療福祉大学学会学術大会.2023/09.
- 28) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔：地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
- 29) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和：がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
- 30) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔：住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
- 31) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International

Papillomavirus Conference. Apr.2023.

研究分担者：細野覚代
なし

研究分担者：町井涼子

- 1) 町井涼子、上原慶太、沖山陽子、比嘉貢、高橋宏和. 県主導によるがん検診の精検受診率向上策の検討. 第80回公衆衛生学会2021. 東京
- 2) Takahashi H, Machii R. Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (20231216) Tokyo
- 3) Takahashi H, Machii R. Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Cancer Screening Network 2023 (20230620) Turin
- 3) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023/11/2、筑波.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

小川俊夫. 指標算出装置、指標算出方法、およびプログラム (特願 2022-083546)、2022年5月23日提出.

2. 実用新案登録 なし

3.その他 なし